

2012 年 12 月 13 日の【新着情報】でお知らせした通り、IFTA ジャーナル 2013 年号がリリースされました。

<http://www.ntaa.or.jp/wp-content/uploads/2012/12/IFTA-Journal-2013-release.pdf>

少し古くなりますが、前年号 (IFTA ジャーナル 2012 年号) の編集長からメッセージ日本語訳を掲載します。同メッセージは、テクニカル分析の変遷と現代のテクニカル分析を簡潔にかつ的確に表現していると思われます。

[http://ifta.org/public/files/journal/d_ifta_journal_12\(md010312\).pdf](http://ifta.org/public/files/journal/d_ifta_journal_12(md010312).pdf)

IFTA ジャーナル 2012 年号リリースにあたっての

ロルフ・ウェツァー編集長 (現 IFTA 会長) からのメッセージ

親愛なる IFTA の同僚・友人に

テクニカル・アナリストは当初、チャーティストと呼ばれていました。彼らは市場予測をするべく価格データを表にプロットし、分析をしていました。この手法に対する一般社会の認識は「茶葉占いをするようなもの」という程度でした。しかし、この時代に価格の動きを図形的に表現し、それらの図形から何らかの結論を導き出すという様々なアイディアが生まれました。それ以降、大きな発展と変革がありました。現代のテクニカル・アナリストは心理学、統計学、コンピュータ・サイエンス、情報科学、そして物理学までも取り入れ、分析・予想を行います。現在では、コンピュータの際限のない能力向上を背景に、市場を分析するあらゆる手法がテクニカル分析と認識されています。

IFTA ジャーナルの内容の全ては IFTA メンバーから投稿される論文に拠っています。最初にジャーナルの計画やテーマが決められ、それに従って編集されるわけではありません。そうではなく、投稿される論文の内容がジャーナルのテーマが決めていくという流れになっています。今年について言えば、メイン・テーマはボラティリティーということになりました。我々はこのテーマについていろいろな論文を掲載しました。内容は基本的なボラティリティー・ブレイクアウトから、より複雑なボラティリティーとその相関分析というものまで各種あります。大変広いテクニカル分析のテーマがカバーされています。ギャン分析、MACD のヒューリスティックなパターン検索、モダン・サイクル理論に基づく移動平均期間の決定手法等も含まれています。

IFTA ジャーナルは IFTA の精神を反映しています。IFTA は世界中のマーケット・テクニシャンが集い、同じ言葉を話すフォーラムです。今回のジャーナルには、オーストラリア、アフリカ、ヨーロッ



パ、そしてアメリカの研究者から投稿された論文が掲載されています。掲載されている論文の中には各国の協会で賞を取った論文の要約版もいくつかあります。この点に関し、ドイツの協会である VTAD に特別な感謝をしたいと思います。彼らは協会の受賞論文の要約版を提出することを奨励してくれました。その他には、MFTA(国際テクニカルアナリスト連盟 (IFTA) 検定テクニカルアナリスト)論文と、オーストラリアの会員から寄せられた書評が二つ掲載されています。

今年は IFTA ジャーナルにいくつかの変更がなされました。これまで4年間編集を担当していただいたレジーナ・ミーニ(APTA, ATAA, STA)が今年その任を降りました。レジーナはジャーナルを再活性化してくれました。テクニシャンたちがそのアイディアを広く世界に発表する場を持つことができるのはまさに彼女の努力の賜物です。レジーナさん本当にありがとうございました。

今年のジャーナルは新しいチームで発行されました。私はこのジャーナルで各種レポートの編集を担当していただいたエレイン・クヌースにお礼を申し上げたい。彼女の協力、献身、専門知識、そしてハードワークがなければ、このジャーナルは存在しなかったとも言えます。リンダ・バーネチックとジョン・エンジャミンにもジャーナル発行への努力を感謝致します。また、投稿されたいろいろなレポートを読みこなし選別していただいたマイケル・サマースキー(ATAA, APTA)とマーク・ブラウンロー(ATAA, APTA)にもお礼を申し上げます。

今年(※)は世界中でいろいろなことが起こりました。大半は一過性の問題でしたが、春に日本で起きた大惨事は日本人たちにとって大変厳しいものだったと思います。ですから私は本ジャーナルを NTAA の友人たちに捧げたいと思います。皆さん思い出してください、世界最初のチャーティストが生まれ、テクニカル分析の発祥となったのは日本なのです。

※当該ジャーナルが発刊されたのは 2011 年末